時事緑報
VOL.1

岐阜県立森林文化アカデミー

長野県林業大学校

未来の林業家を育てる
林業学校に注目

林業を活性化させるための人材育成に積極的な学校があります。
今回、長野県林業大学校と岐阜県立森林文化アカデミーに取材を敢行。
両学校とも実践的な授業内容で、即戦力となる人材を育成していました。

長野県林業大学校

専門知識習得だけでなく人間形成も行う全寮大学

〝自然のなかに心のなかに森林（もり）を育てる〟をモットーとして昭和五四年に開校した長野県林業大学校。就学年数は二年、一学年二〇名の全寮制の大学です。教育方針は①一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成をはからせるなど指導者となるための全人教育を行なう②大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並び知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う③実験、実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う、を掲げています。

「本校では、より魅力的な学校とするための改革を二年前から実施しており、GISなど先進的な技術を学ぶ科目や、海外研修などを新たに取り入れています」（武田雅宏教授）

大学では林業作業に必要な技能など、即戦力に繋がる多くの資格が取得できます。また、木曽町三岳地区に二二二ヘクタールの広大な演習林を有していて、専門知識と技術を培う恵まれた環境が用意されています。

「演習林の実習の授業では選木、伐採、造材して運び出すという一連の作業を行っています」（武田雅宏参事）

社会の中でリーダーシップを取るためには、様々な知識も必要なため、一年生は一般教養過程も習得します。二年生になると、実学重視ということで、県内の専門的な現場（造材技術のある企業や、木工技術のある工場など）へ行き、現地で学びます。実際、現場で学べることは、この大学の大きな魅力といえます。

「長野県外の学生も多く、県外の卒業生の中には長野の魅力を知って、地元を離れて長野で就職して生活している人もいます。多くの人たちに長野で暮らしてみたいと思ってもらえたら嬉しいですね。林業の知識や技術を身に付けることも、もちろん大切ですが、学校での二年間の寮生活を通して、人としても成長できます」（倉沢明人校長）

チェーンソーによる玉切り

教授の指示のもと伐採作業に取り組む生徒

普通の大学と同じく、一般教養過程の授業も

学生と教授の声

松原秀幸教授

すぐに一人前とはいきませんが、山の現場にとけ込める人づくりを目標にしています。山での仕事は一人ではできませんから、チームワークが大切です。そういったことは寮生活でも学ぶと思います。入学当初の生徒は自分勝手でわがままなところもありますが、学校生活を通して山の仕事で鍛えられ、社会に出る素質はできていると思います。あと、山に入るだけの基礎知識・技術を身に付けることができます。森林に手を入れるための人材は必要不可欠ですので、一人でも多くの学生にこの学校に来ていただいて、勉強して山へ巣立っていって欲しいですね。

後藤淳平さん（2年）

小さい頃から山が大好きで、林業に就きたいと思って、林業系の高校へ進学しました。先生から林業大学があることを教えてもらって、この学校に入ったんです。大学は寮生活なので、相手のことを考えて行動するように心がけてます。もともと僕は声が小さかったんですけど、大学の寮ではみんなとコミュニケーションをとるために大きな声で話すことは必須なので、徐々に僕も大きな声で話せるようになりました。あと、大学の授業を通して、みんなで一つのことをやることの喜びを覚えましたね。

岐阜県立森林文化アカデミー

林業を取り巻く様々な分野の人材育成

県土の面積の八割を森林で占めている岐阜県では、森林に関わる人材育成に積極的です。昭和三〇年から林業育成機関を設け、昭和四六年には岐阜県林業短期大学校が開校しました。その後、平成一三年に岐阜県立森林文化アカデミーが設立され、林業を取り巻く様々な分野の人材育成を行っています。アカデミーには技術者を育てる〝エンジニア科〟と、森林・木材に関わる仕事でリーダーシップをとることができる人材を育成する〝クリエーター科〟があります（※エンジニア科は高校卒業程度以上、クリエーター科は大学卒業程度以上が対象。両科とも二年制で、一クラス二〇名）。

「クリエーター科は社会人経験者が多く、平均年齢は三〇歳。コンピューター関連のプログラマーや水力発電所の設計士など、違業種だった人が沢山います」（教務課・加納誠一氏）

アカデミーでは実践主義ということで、実習中心の授業を行なっています。エンジニア科の一年生は前期で全体的なことを学び、後期に入ると、三つのコースに分かれます。山を育て、利用するための総合的かつ実践的な知識・技術を学ぶ〝森のコース〟、『自然を知る』『人と自然をつなぐ』の二つの視点を軸にしたカリキュラムが用意されている〝環境のコース〟、木を有効に使い、生活に結びついた『木の家』をつくる技術を学ぶ〝木のコース〟があります。それぞれの分野の特徴を活かしながら、社会で必要とされる人材に育て上げることを教育目標に掲げています。

一方、クリエーター科では専門に特化した内容を体系的に学習します。地域林業研究会、里山研究会、環境教育インタープリテーション研究会、木造建築スタジオ、ものづくり研究会といった5つの研究会を設けています。それぞれの研究会では社会と接点を持ちながら、地域（外部の団体や企業など）に密着した実践的な活動（木質バイオマスエネルギーの調査研究、里山の生態の調査研究など）を行っています。

「自然と人との新しい関わり方を探り、持続可能な循環社会の形成に寄与できる人材を育成していきたいと思っています」（教務課・加納誠一氏）

研修林の木材を使用して生徒が建築

伐採の基礎知識など学ぶ講義（エンジニア科）

研修林での伐倒作業（エンジニア科）

粗木取りから製品製作まで行える木工機械が備わる作業室

学生と講師の声

松本武講師

生徒には自分が伐採した木がどのように変化していくかを知ってもらいたいと思っています。学校内には製材所、乾燥室、作業室などがあるので、木の一連の流れを学ぶことができます。核になる技術を教え、現場で即戦力の一歩手前ぐらいまでの人材を育成したいと思っています。

安江政守さん（エンジニア科１年）

父親が林業家だったこともあり、幼い頃から森林には親しんでいました。そのこともあって、自分も自然と林業家になりたいと思ったんです。課外研修などで友達とのチームワークの大切さを学びました。将来、自分じゃないとできないような森林での仕事をやることが目標です。

島塚亮丞さん（エンジニア科１年）

高校の頃、テレビで林業家の姿を観て興味を持ったんです。それで学校のオープンキャンパスへ行って、先生からいろんな話を聞いるうちに自分も森林で働きたい、と。授業では実践的なことをやっているんですが、なかなか上手くいかなくて…。卒業する頃には少しでも本物の林業家に近づけるようになりたいですね。